

佐賀県鹿島市 *Press release*

報道機関 各位

部課名 | ゼロカーボンシティ推進課

件名	鹿島市が「SDGs未来都市」に選定されました！
アピールポイント	本市は平成28年度よりローカルSDGsの推進を行ってきましたが、この度その取組が評価され、内閣府の「SDGs未来都市」に選定されました。 5月22日内閣府において、選定証授与式が開催され、市長が認定を受けました。 SDGs未来都市の選定を受けたのは、佐賀県で初めてです。
説明	1. 選定都市 SDGs未来都市: 28都市(28自治体) 自治体SDGsモデル事業: 10事業 2. 選定証授与式(下記で行われました) 1)日時 令和5年5月22日(月)15時00分～15時30分 2)開催場所 中央合同庁舎 第8号館 講堂 東京都千代田区永田町1丁目6-1 3. 提案内容 提案テーマ:「健康な有明海・流域に立脚する、くらしやすく持続可能な鹿島市」 提案内容:鹿島市はこれまで環境と産業の調和を目指し事業を進めてきました。 2030年以降も、今ある環境・豊かな干潟が保たれ、子供たちが外で遊び、人々が安全・安心に暮らしていける鹿島市を目指して、「しごとづくり」「ひとづくり」「まちづくり」の好循環が機能することにより、「住みやすく暮らしやすいまち」が創出できるよう、これからもSDGsを推進していきます！
別添資料	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

## 本件に関する問合せ先

所属	ゼロカーボンシティ推進課
氏名	課長補佐 江島 美央
TEL	0954-63-3416
FAX	0954-62-3717
Mail	<a href="mailto:kankyou@city.saga-kashima.lg.jp">kankyou@city.saga-kashima.lg.jp</a>

# 2023年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル: **健康な有明海・流域に立脚する、くらしやすく持続可能な鹿島市**

提案者名: 佐賀県鹿島市

全体計画の概要: 鹿島市はこれまで環境と産業の調和を目指し事業を進めてきた。2030年以降も、今ある環境・豊かな干潟が保たれ、子供たちが外で遊び、人々が安全・安心に暮らしていける鹿島市を目指す。そのために、「しごとづくり」「ひとづくり」「まちづくり」の好循環が機能することにより、「住みやすく暮らしやすいまち」を創出する。

1. 将来ビジョン	<b>地域の実態</b>	<b>2030年のあるべき姿</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口 27,915人(R2) 少子高齢化。女性の割合が多い。</li> <li>●森里川海干潟に囲まれた自然豊かな町</li> <li>●担い手不足、生産年齢人口の流出、レジリエンスの向上が課題</li> <li>●第一次産業が強い、世界に誇るものづくりの技術、ラムサール</li> </ul>	<p>【経済】鹿島の「ものづくり」の魅力向上</p> <p>【社会】「住みやすく暮らしやすい」、「鹿島市の特色を活かした魅力あるまちづくり」</p> <p>【環境】人と自然が共生する地球に優しい自然豊かな街づくり</p>
	<b>2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット</b>	<p>【経済】 高いレベルの経済生産性を達成8.2・中小零細企業の成長の奨励8.3</p> <p>【社会】 女性の参画5.5、レジリエンスの向上11.5</p> <p>【環境】 再エネの導入7.3、海陸の生態系回復 14.2、15.4</p> 

2. 自治体SDGsの推進に資する取組	<b>自治体SDGsに資する取組</b>	<b>情報発信</b>	<b>普及展開性</b>
	<p>【経済】 スタートアップ支援や若者の自立・就労支援、地域の産業活性化、環境負荷低減に向けた取組</p> <p>【社会】 安心安全なまちづくり(レジリエンス向上)・女性が輝くまちの推進</p> <p>【環境】 エネルギー貧困解消・再生可能エネルギー導入促進、森林の生態系の保全</p>	<p>【域内】市HP,市報、SNS、市民のワークショップ、環境教育、出前講座、イベント</p> <p>【域外】市HP,市報、SNS、報道機関との連携、学会での発表、連携協定企業や教育機関を通じた情報発信</p> <p>【国外】ラムサール条約に関する国際会議における情報発信・外国人が多く参加するイベントでの普及啓発</p>	<p>●気候変動緩和策の一部と生物多様性・生態系サービスのトレードオフの緩和を考慮したまちづくりの実現により、同様の地理的課題を抱える自治体のモデルとなる。</p> <p>●金融機関や企業を巻き込みたい同様の社会的課題を持つ小規模自治体(人口30,000人前後)への普及が可能。</p>

3. 推進体制	<b>各種計画への反映</b>	<b>行政体内部の執行体制</b>	<b>ステークホルダーとの連携</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第七次鹿島市総合計画</li> <li>・ まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)に反映済。</li> <li>・ 今後、第4次鹿島市環境基本計画など各種計画の策定及び改定の際に順次反映する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市長を本部長とする鹿島市SDGs未来都市・カーボンニュートラル推進本部において庁内の横断的な推進体制を構築し、市の課題解決に向けたSDGsの推進にかかる方針決定・進捗管理などを行う。</li> <li>・ 女性職員で組織されるSDGsWGを設置する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内の協議会、教育機関、連携協定企業と連携する。</li> <li>・ 市内企業など84団体が参加している肥前鹿島干潟SDGs進パートナーと連携して相乗効果を生み出し、スピード感を持ってSDGsの推進に取り組む。</li> </ul>

自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

自律的好循環の手段「鹿島モデル」・・・鹿島モデルでは、事業を効果的に進めるため、肥前鹿島干潟SDGs推進パートナーが事業実施主体者を支援する。SDGsの取り組みの足がかりを自治体が担い、そのあとの深掘り、支援を金融機関がおこなっていくことで、企業が事業等を創出しやすくなり、かつ地域一体となってSDGs事業が創出できる仕組みとなっている。



